

## 杭州 2022 アジアパラ競技大会選手コメント【10月28日】

### ◆男子 100m (T63 クラス)決勝

#### 稲垣克明選手(住友電装)

「非常に良いコンディションで臨んだけれども、結果に出なくて非常に悔しい。昨日の 100m では緊張感がありましたが、今日はそれほどでは無かったが、何も出来ずに終わってしまった。現状を受け止めて来年に向けて練習していきたい。」

#### 近藤 元選手(摂南大学)

「昨日の 100m でメダルを取れなかったのが今日、金メダルを取れてうれしいです。自己ベストタイでこの記録を更新したかったけれど、世界選手権より跳べたので良かったです。まだ助走スピードを上げていけないといけないのと、まだ細かい点の修正が必要と思う。まずは、来年の世界選手権でメダルを獲得、パリパラリンピックに出場してメダル獲得までいけたらと思う。」

### ◆男子 400m (T54 クラス)決勝

#### 豊田響心選手(GROP SINCERITE WORLD-AC)

「これからもっと強くならなければと思いました。前日に予選で走り、翌日朝から決勝で走る 2 回レースを走るというのは日本では滅多に無いことなので良い経験になりました。自分の今の力を知る機会になった。」

### ◆女子 400m (T47 クラス)決勝

#### 辻 沙絵選手(日本体育大学)

「58 秒台を狙っていたので不甲斐ない結果で終わってしまった。200m から 300m のストレート出てくるところから内側から来たのもわかっていたので焦りがでてリズムが崩れてしまった。前半のスピードを恐れて出せないところが多いのでそのスピードを上げて入ることと、後半 31~32 秒かかってしまうのでそこを 30 秒切るところを目指していれば良い走りができるかと思うので、また頑張ります。」

◆4×100mユニバーサルリレー決勝

1 走 澤田優蘭選手(エントリー)・塩川竜平

「私自身は、昨日よりもスタートの出を意識してうまく走れたかなと思いますが、まだまだもっと上げたっかなと悔しい思いがあります。」

2 走 三本木優也選手(京都教育大学)

「予選よりは攻めたレースをしようとするのがこのチームのテーマだったので、攻めながらもタッチワークはうまくできたと思う。」

3 走 高松佑圭選手(ローソン)

「2 走から 3 走の加速はうまくできたけど、3 走から 4 走で私がうまくタッチが出来なかった事が悔しいです。私が焦ってしまった。生馬選手に感謝しています。」

4 走 生馬知季選手(GROP SINCERITE WORLD-AC)

「かろうじて手を伸ばしてタッチできて記録は残せましたが、タイム的には縮められず課題が残ったレースだった。自分の走力が足りていない部分もあるのでそこを上げていくことは大前提だが、他の国よりも上だとは思うが、タッチワークの反復練習をして精度を上げていかないといけない」

◆男子 1500m(T20 クラス)決勝

中川大輔選手(三菱自動車工業)

「最初から先頭に立ったのは、逃げ切ろうかと思って。メダル取れて良かったです。ありがとうございました。」

大河内健太選手(佐賀県立伊万里特別支援学校)

「今はうれしいですが、初めての国際大会で自己ベストを狙っていたが 10 秒以上遅かったので悔しいです。先頭についていく予定でしたが、ついていたらバテるかなと思って少しずつ詰めていって最後、気持ちでスピードを上げていきました。最初、中国に着いたときは緊張しましたが、だいぶ慣れました。(中国に来る前に)おばあちゃんが亡くなったので金メダルが取れてうれしいです。」

◆女子 1500m (T20 クラス) 決勝

**山本萌恵子選手(愛知陸上競技協会)**

「うれしいです。タイムが悪くて悔しいです。先頭で走りしっかり頑張りました。次は世界ランキングを上げたいです」

**阿利美咲選手(吉野川陸上競技協会)**

「とてもうれしいです。頑張りました。応援の声が聞こえて楽しく走れました。」